H28、10、28 茨城新聞

適切な施設に振り分け

結城特別支援学校 避難所の開設訓練



トリアージ訓練では、受け付け担当者（手前）が避難者を状態に応じて適切な施設に振り分けた＝結城市鹿窪

県立結城特別支援学校（結城市鹿窪、古川仁校長）で27日、震度6強の地震が発生した想定で、避難所を開設する訓練が行われた。同校は一般・福祉双方の避難所に指定されており、避難者を障害やけがの有無などに応じて適切な施設に振り分ける「トリアージ」の訓練も初めて実施された。

同校は関東・東北豪雨で児童生徒を含む障害者の避難の受け皿となれなかった反省から、今春、一般・福祉の併設型避難所となった。訓練には児童生徒や保護者、市内福祉施設関係者など約320人が参加した。

トリアージ訓練では、福祉関係者らが健常者や障害者、傷病者役となり、同校教員と市職員が受け付けた。「体育館で多くの人と一緒に過ごすのは難しいですか」などと声を掛け、状態に応じて校内の避難所や医療機関、他の福祉避難所に向かうよう振り分けた。

併設型避難所は一般避難所と同時に福祉避難所をより短時間で開設できる利点がある。知的障害のある中学2年の長男が同校に通う父親(50)は「昨年の水害時、一般避難所では息子がパニックを起こしてしまうと思い、避難せず自宅にとどまった。最初から学校に避難できれば安心」と語った。

（小原瑛平）